

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿（９月２７日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

今朝は、奄美図書館の新着図書についてご案内します。

まずは、一般書のご案内です。

１冊目は、^{しげまつきよし}重松清さんの『きみの町で』という本です。重松さんは、南日本新聞に小説を連載中ですが、この本は、「自分」「自由」「人生」などをテーマに、短いお話を集めたもので、以前出版された『こども哲学』シリーズの付録として書かれたものです。哲学というとかたい感じがしますが、誰もが一度は経験したことがあるような親しみやすい内容になっています。たとえば、電車の中でお年寄りに席をゆずるかどうかなど、とか、クラスメートをいじめているグループに「やめろよ」と、とめに入るかどうかといった内容です。また、東日本大震災をテーマにした四つのお話も収録されています。生きていると困ったり悩んだりいろんなことがあるけれど、「不自由」もそう悪くないよ、という著者のメッセージが心にほんのり灯りをともしてくれるようです。

２冊目に紹介するのは、『ボケたっていいじゃない』という本です。昨年、『毎日がアルツハイマー』という長編動画が YouTube で話題となりました。その動画を作った^{せきぐち}関口祐加さんが書いた本です。関口さんは、アルツハイマー型認知症の母親と二人暮らしをしながら、ありのままの母親の姿を撮影しています。認知症の母親と、その母親を介護する娘の日常を綴った本、といえはなんとなくネガティブな気分になりそうですが、読んでいくと、不思議と明るい気持ちになるのです。もともと真面目で厳しかった母が、認知症発症により喜怒哀楽がはっきりした性格に変わったことに、娘である著者は、「母は解放された」と喜びます。著者が、母親の存在自体をそのまま受け入れて、母と娘の関係を新たに作り直していく姿に、とても前向きな気持ちになれる１冊です。

次は、児童書をご案内しましょう。

『ごんぎつね』や『でんでんむしのかなしみ』などの童話で知られる^{にい み なんきち}新美南吉は、今年で^{せいたん}生誕１００年を迎えます。１冊目に紹介するのは、その新美南吉の作品である『にひきのかえる』です。ここ奄美大島には、たくさんの種類のかえるが生息していますが、このお話の中にも、「みどりのかえる」と「きいろのかえる」が登場します。二匹のかえるは

お互いの色を，美しくないとけなし合い，けんかを始めます。しかし，決着がつかないまま，冬眠の時期を迎えます。春になったら勝負をつける約束をして冬眠に入るのです。やがて春が来て，目覚めた二匹のかえるが再び出会い，とった行動とは・・・？このお話の最後の一文がすっと心に落ちてきます。

2冊目は、『深海の怪物 ダイオウイカを追え』という本です。ダイオウイカとは長さが最大で18メートルもある巨大なイカで，1000メートルもの深い海の中に住んでいますが，その生態はまだ謎に包まれています。目玉がバスケットボールぐらいといいますから，どんなイカなのか見てみたいですね。この本の著者である窪寺恒己^{くぼでらつねみ}さんは，10年以上ダイオウイカの研究に携わってきました。いくつものチャレンジのすえ，昨年小笠原^{おがさわら}諸島沖でダイオウイカの動画撮影に初めて成功しました。何度も失敗を繰り返しながらようやく生きているダイオウイカと出会ったときの著者の感動は，共感を呼びます。

最後は，郷土に関する本のご案内です。

奄美では世界自然遺産登録に向けて様々な取り組みがなされています。そこで今回は，沖縄大学地域研究所から出ている『世界遺産・聖地巡り～琉球・奄美・熊野・サンティアゴ～』という本を紹介します。そもそも世界遺産って何でしょう？世界遺産に登録されると奄美はどのように変わっていくのでしょうか？・・・世界遺産条約のしくみや，世界遺産に向けた課題をはじめ，今さら人には聞きにくいけれど，知識として持っていたい情報をこの本から得ることができます。今月1日に，奄美市で，「奄美・琉球世界遺産検定」が実施されましたが，この試験の参考図書にもなった本です。世界自然遺産登録を目指すとはどういうことなのか詳しくわかる1冊です。

さて，朝夕はだいぶ過ごしやすくなりました。エアコンの効いた真夏の図書館は大盛況でしたが，暑さのやわらいだ今も，土曜日・日曜日は，やはり多くの方にお越しいただいております。児童閲覧室では10月31日まで，「奄美について知ろう」をテーマに展示を行っております。また2階閲覧室では，10月1日より，アジアに関する本の展示を行う予定です。みなさん，お気軽に図書館へお越しください。

鹿児島県立奄美図書館でした。